

# 十二 盆

発行日 令和 4年 9月 15日 (第 9 4号)  
発行 土沢地域づくり会議 代表 新田繁夫  
〒028-0115  
花巻市東和町安俵 6 区 53 番地  
TEL 0198-42-3255 FAX 0198-42-4234

## コロナ心配でしたが…行事着々と

炎天下はきつい。第 12 回グラウンドゴルフ大会 (7月 31 日) に 25 名が参加。カキーン…同じコースで 60 打と 94 打は…なぜ?、これがおもしろい。星空のロマン「土沢七夕まつり」。(8月 6 日・7 日)。今年のお飾りはちょっと控えめ?。久しぶりに町が賑い、若い人達が多いねエ〜と。意外です。「おこわ」が好きでリクエスト。郷土料理教室 (8月 24 日) に 10 人。皆さん手際が良く、さすがです。東日本大震災っていつ?。11 年前の 3 月、小雪降る日でした。あの日の惨事を忘れないために…震災復興研修 (9月 2 日) に 25 人参加。

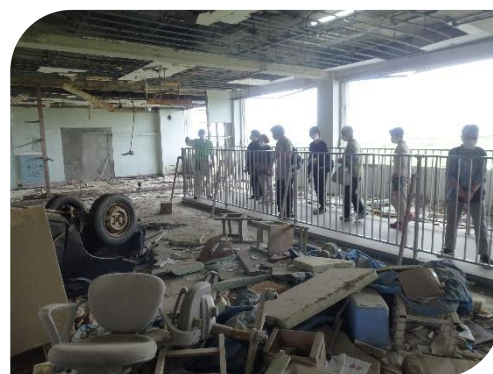


町は活気がある方がいいですね…土沢七夕まつり  
お飾りの一部を七夕飾り共同制作支援事業でサポート



根っこがちょっとねエ〜…  
グラウンドゴルフ大会

最後は愛情を込めてエ〜…と  
郷土料理教室



ここは 3 階です。津波で運ばれてきた車  
その破壊力にただただ驚愕  
東日本大震災遺構・気仙沼市

## 歩行者が優先

道路交通法では、信号機のない横断歩道で、横断しようとしている…あるいは横断中の歩行者等がいるときは必ず一時停止をする…と規定されています。違反者には反則金や違反点数が科せられます。ドライバーの皆さん、交通マナーを意識し歩行者優先の原則を守りましょう。

今年 土沢地区は交通安全推進モデル地区

## 土沢地区の人口と世帯数

令和 4 年 7 月末日現在

行政区	日本人住民						外国人住民			
	世帯数	男	女	計	出生	死亡	世帯数	男	女	計
土沢第 1 (新地・百ノ沢)	130	177	185	362	0	1	0	0	1	1
土沢第 2 (鏑町)	144	145	177	322	0	2	0	0	3	3
土沢第 3 (中町・下町)	154	177	189	366	0	0	10	3	8	11
土沢第 4 (駅前・上町)	174	180	210	390	0	2	8	6	3	9
土沢第 5 (前郷・八日市場)	137	176	193	369	0	2	0	1	0	1
土沢第 9 (六本木)	248	295	336	631	0	0	6	6	1	7
合計	987	1,150	1,290	2,440	0	7	24	16	16	32

※この表は花巻市住民登録人口集計表を参考に作成しています。

参加者募集  
須川で ふれあい ハイキング

目的：岩手・秋田・宮城の3県にまたがる名峰栗駒山の中腹にある須川高原を散策、紅葉の秋を楽しむハイキング

日時：令和4年10月21日（金）  
午前8時30分～午後4時（予定）

講師：とうわ野鳥の会 斎藤秋雄氏

参加料：200円（傷害保険料）

定員：土沢振興センター管内の方優先 20名  
（先着順）

持ち物：雨具、帽子、昼食、防寒具ほか

その他：申し込み／詳しくは10月1日配布のチラシをご覧ください。TEL42-3255

初心者大歓迎

ゆ～ったりと 太極拳 はいかが

目的：健康保持増進に効果があると言われる「太極拳」にふれ、健康的な日常生活をおくる

日時：令和4年11月10日（木）、17日（木）、  
24日（木）、12月1日（木） 全4回  
毎回10：00～11：30

会場：東和コミュニティセンター

講師：日本武術太極拳連盟公認 A級指導員  
高橋セイ子氏（花巻市生涯学習講師）

定員：15名

その他：申し込み／詳しくは10月1日配布のチラシをご覧ください。TEL42-3255

かわいい～ねェ 生産者／前郷の菊池さん、品名・プチぷよ（通秋ミニトマト）、サイズS、収穫日／8月22日…と、色々並べましたが、かわいい双子？のミニトマトを収穫。（写真）毎朝畑のチェックが日課の菊池さん。この日仲良しトマトにご満悦で、とても食べれませ～ん（笑）。



ふる歴コーナー

コミセン内に併設されている「ふるさと歴史展示室」から東和の歴史を紹介します。  
〈展示パネル引用〉

国指定需要文化財 彫刻

もくぞうびしゃもんでんりゅうぞう  
木造毘沙門天立像

所在地 成島毘沙門堂

平安時代（10世紀前半）に造られた、高さ4.73mの巨像で、日本で一番大きい毘沙門天像です。

ケヤキ材の一本造りで、両腕と地天女の顔は別の木材で造られています。毘沙門天は四天王の一人、多聞天の別称で、北方の守護神であり、福德をもたらす神でもあります。戦勝神や護国神としても信仰されました。なかでも、地天女の両手に支えられて立ち、尼藍婆、毘藍婆を従えた姿のものを、「兜跋毘沙門天」といいます。

なかでも、この像は平安時代初期に、坂上田村麻呂が東北地方の先住民（蝦夷）を征伐した際に、北方の守護として造られ安置されたとも伝わっています。

また、地天女の手が指先を後ろに向けた担ぎ持ちではなく、指先を前に向けた捧げ持ちになっているため、地元の人々からの崇敬の念をあらわしているとも言われています。

